



# 語る会通信 Vol.51 秋号



みなさんこんにちは。すっかり秋らしくなり寒さを感じ始めた今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか？朝晩は冷え込むようになりましたのでお体には気をつけてくださいね。先日、ちよかわ幼稚園の運動会に行ってきました。子供たちの入場行進を前列から見ていたのですが、わずか38人という少なさにビックリしました。私が議員になりたての10年以上前は、倍以上の子供たちがいたと記憶していますが、多少の周辺幼稚園への分散を加味したとしても少子化の波は、目の前に確実に来ていると実感せざるを得ませんでした。

超少子高齢化の時代を迎えて、下妻市はどのように対応すべきなのかが大きく問われる時代がやってきました。まさしく政治の役割が今まで以上に大きくなり、やり方によっては大きく飛躍するチャンスといえるかもしれません。みなさんと共に知恵を出し合い、下妻市が『豊かな田舎』となるのが、私の下妻市の理想像です。ぜひみなさん一緒に考えましょう。

## 第3回下妻市議会定例会報告

平成29年第3回下妻市議定例会が9月7日から9月26日までの20日間の会期で行われ、今回上程された報告4件、議案7件、認定8件が上程され、全議案、原案通り可決されました。なお、例年9月議会は、前年度の決算審査が主な議案となっています。

### 審議した主な議案

#### 1. 下妻市の財政健全化判断比率等について

健全化判断比率	平成27年度	平成28年度	基準値	前年度比較
実質公債費比率	9.6%	8.3%	25.0%以下	良化(1.3%)
経常収支比率	87.7%	92.0%	80%以下が望ましい	悪化(4.3%)

実質公債費比率・・・収入に対する借金返済の割合

例えば100万円の収入に対して8.3万円は借金の返済に充てているという事。

経常収支比率・・・人件費など必ず支出しなければならない費用の割合

例えば100万円の収入に対して92万円は通常の生活費に充てられるため、

残りの万円しか自由に使えるお金がないことを意味している。

経常収支比率が悪化した要因としては、障害者福祉費や生活保護費などの扶助費、施設運営管理費などが増加したことなどにより悪化しており、財政の硬直化が更に進んでいる。

#### 2. 例ふれあい下妻 平成28年度経営状況報告について

▲はマイナスを示す

	H26年度	H27年度	H28年度	前期比増減
売上高 (千円)	788,994	680,029	884,563	204,534
(道の駅)	509,658	531,055	638,444	107,389
(ピアスパーク)	279,408	148,974	246,119	97,145
営業利益	▲103,122	▲110,204	▲26,698	83,506
道の駅利用者(人)	622,863	545,386	760,676	215,290
温泉入場者	162,093	92,108	155,111	63,003

☆実質的な営業力を比較するため各事業年度ともに営業利益を記載した。

①平成28年度は営業損失▲2,669万円が計上されており、その損失補填金として一般会計より6千万円(指定管理料の名目)が拠出されている。

#### 3. 下妻市体育施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について



旧東部中学校の柔道剣道場及び旧千代川中学校の体育館について、利用の見直しを図るため、条例の一部を改正するもの

→旧東部中学校敷地全体について今後売却が予定されているため

#### 4. 市道路線の廃止について

- ①旧東部中学校跡地の路線見直しによるもの 大串地内  
跡地を売却可能とするため跡地内にある市道路線を廃止するもの
- ②しもつま鯨工業団地造成事業によるもの 鯨地内 10件 など

#### 5. 平成28年度下妻市一般会計歳入歳出決算について

- ①防犯灯 LED 化調査業務委託料の計上
- ②下妻中学校備品購入費の計上 など

今回の補正は、2億425万6千円を追加し、一般会計の予算総額は161億4,529万3千円となった。

#### 6. 平成28年度下妻市一般会計歳入歳出決算について

歳入総額 186億7,792万円

歳出総額 177億4,476万円

国からの普通交付税は、合併算定替えの特例による増額分の段階的削減が開始された事により前年度比7.8%（2億4,529万円）の減額となった。

※合併算定替えとは、旧下妻市と旧千代川村が合併した事により、合併後10年間は、旧市村にそれぞれ交付されていた普通交付税額の合計額を交付するが、合併10年後の平成28年度から段階的に減額するというもの。H33年度には現在より約5億円以上の歳入が削減される。

→つまり国としては、合併後10年間でスケールメリット等を生かして行政を効率化して下さい。10年後には普通交付税額が確実に削減されるので、というものである。

この行政の効率化対策等の資金として多額の合併特例債を認めたのである。

→下妻市は合併特例債 約100億円が認められているが、ほぼ満額計上予定である。

合併特例債の主な起債状況（確定：下記①、② その他は予定額）

- ① 東部中学校建設事業 約22億 確定
- ② 道の駅改築事業 約4億1,700万円 確定
- ③ 都市再生整備計画事業（わいわいドーム、砂沼周辺開発など）約10億9,300万円
- ④ 南原・平川戸線 約23億650万円
- ⑤ 南部環状線 約17億820万円
- ⑥ 新庁舎建設事業 約12億480万円
- ⑦

合併特例債は有利な起債ではあるが、あくまでも借金である。

## ひろしのコメント

政府では、人口減少の本格化を前に、地方自治体に人口ビジョンを作らせて、人口減少の流れを留めるための総合戦略を策定し、実践することを求めています。

つまり東京への人口集中を緩和し、地方へ少しでも人口を逆流させるという発想です。この発想ですと私は、地方側では短期的な成果を求めてしまい、補助金などによる人口誘致合戦になってしまうのではないのでしょうか？ なぜならば、人の移動は、経済活力や市の魅力度などその市の持っている総合的な力の差により生じるものだからです。

従って、今私たちが考えるべきことは、このように強制的に流れを変える施策ではなく、たとえ人口が減少しても、より豊かに、安心して暮らすことのできる地域社会をつくる事です。

下妻市で考えてみると、経済的な面ばかりではなく、環境面や心理面においても『豊かな田舎』になることが、遠い道のりかもしれませんが、一番の近道であると確信しています。

今、私たちには、10年先・30年先の将来を見据え、地域の資源等を再発見し、利活用して、一人ひとりが生み出す価値を増やす発想が必要ではないのでしょうか。

『豊かな田舎』『何かありそうで、ワクワクしそうな街』『ベンチャー企業が設立しやすい環境』などには、人が必然的に集まってくるし、地域の若者たちの流失も防げると想っています。私はそんな下妻市を夢見ています。



## 1. テイセン産業工場跡地について

問 本土地は、砂沼西側に面

し、面積約3万㎡、取得価格2・6億円で下妻市開発公社が平成25年3月に取得しているが購入目的を再確認する。

市長公室長 市発展のため多目的に使用できる土地である事、砂沼に面する風光明媚な土地であることなど将来性を見込んだためなどにより取得した。

問 本公社の平成29年度事業報告によると住宅系の宅地開発を行い地域の活性化を図るとあるが、どのように検討したのか。

市長公室長 日野自動車関連企業の進出など周囲を取り巻く情勢変化により決定した。用地全てが住宅系ではなく、砂沼沿岸には用地の魅力を活用できる総合的な開発を想定している。

問 住宅用地として事業着手することを決定したとあるが、議会に対して何の説明もなく唐突感が否めないが、なぜ急ぐのか。また、物事が決まってから議会に報告するのはいかがなものか。

市長公室長 事業計画について、構想的なものがまとまったので報告した。その後変化があれば報告する。

問 今回の事業決定は、土地の売却ありきで物事がすすんでいるように思える。本土地は、砂沼サンビーチを含めた周辺地域の一体的整備のために活用することを第一に検討すべきではないか。

市長 一般の行政と開発公社は別である。本土地は、大型物流倉庫が出来てしまうという話がありとりあえず買ったものだ。最初から何か目的があり買ったものではない。住宅地については、受け皿としての準備段階として進めており、具体的になれば意見は拝聴する。

## 2. 俵ふれあい下妻について

問 執行部では、赤い字体質の大幅な改善をすべく、ふれあい下妻再建検討委員会（委員長…副市長）にて検討を行っていると思うが現在の検討状況は。

副市長 最大の不採算部門の農園部門を切り離し、現在は経営状況が順調であることから現在は委員会を開催していない。

問 以前より少し良くなっているから何もやっていないと聞ける。経営改善は何もしなければ現状維持ではなくてマイナスだが、経営改善はやらないのか。

副市長 6千万円を3年間頂くのでこの3年間に何とか良い方向へもっていくのが検討委員会の活動である。今後は予算が掛かる場合等は再開する。

## 3. 地域公共交通網形成計画について

問 シモンちゃんバスの運行は本計画に基づいて実施しているが、利用状況の検討はいつ行うのか。

市長公室長 1年程度の推移を踏まえて行う。

問 この計画によるとシモンちゃんバスを郊外ルートで運行することは難しいのではないかと。又郊外の交通手段をどのように考えているか。

市長公室長 行政が行う地域公共交通の導入は採算面において非常に厳しい状況がある。特に採算性の低い郊外部への延伸は国・県等の支援が大きく影響するので動向を鑑みながら検討する。

る。ご指摘のデマンド型タクシーや高齢者福祉タクシー利用助成金の検証など市民のご要望に少しでも近づきたい。

問 以前、福祉巡回バスが採算面から廃止されたが、シモンちゃんバスもそうならないのか。

市長 補助金が賛沢に来るような状況でずっと継続できれば良いと思っている。

## 4. 持続可能な下妻市に向けて

問 現在の下妻市の状況は合併算定替えにより交付税が平成33年度には約5億円減り、砂沼サンビーチを来年以降も運営すれば来年度は億単位の資金が必要となる、更に俵ふれあい下妻の経営改善が進まなければ指定管理料として年6千万円が一般会計から出ていく。わいわいドームやシモンちゃんバス等の経費もプラスされ、超少子高齢化社会に伴う市税の縮減や社会福祉関連費用はますます増大する。今すぐにでも戦略的に縮減方向へカジを切らなければ持続可能な下妻市は難しいと考えるが。

次ページへ



# ほっと一息

## 前ページより

### 一般質問のつづき

又数値上は悪いと認識しておきながら、結局は何も決められないで先送りとなっている。執行部はプロなので私よりよくわかつているはずだ。決断する時は決断してほしい。先送りはいいことではない。

市長 コミュニティバスも砂沼サンビーチも現在の状況は、はつきりわかっている。毎年毎年言われるのは私も大変だが、いつかは決断しなければいけない。

下妻市を最大限、持続可能なまちにするため、私の後継者に対して、財政的に心配かけないようにするにはどうすればよいか、日々頑張っている。私は持続可能な市をつくるために市長になったようなものだ。

「お父さん、もつと笑顔、目線はこつちね。ハイポーズ」カシャ。娘と二人きりの自撮り初体験を経験した。

先日、運よく巨人・阪神戦のチケットが手に入り、当日東京ドームで待ち合せ。うれしいね。写真の背景は、東京ドームの緑一色の人工芝で、私にとっては最高の一枚となった。

試合中は、一緒に弁当を食べたり、得意げに娘に野球の解説をしたり、私にとってはあつという間の素晴らしい時間を過ごすことが出来た。試合内容は、巨人の逆転負け。少々残念。

しかし、一緒に野球を見れたし、阪神・大山選手の活躍場面も見れたので、大満足。「今度また見に行こう。」と誘うと、「いいよ。今度はお母さんと一緒ね。」だって。少しガツクリ。

## 編集後記

自分たちの暮らす地域が、近い将来消滅すると名指しされれば、ネガティブな発想に陥りがちであり、生き残りなどという、小さな発想に陥らないことが重要です。そして、生き残りなどという事を考えたがために、目先の人口維持先に走ってしまうのです・・・

これは『人口減が地方を強くする』（藤波 匠・著）の一節であり、現在、政府が進めている「地方創生」の基本的な考え方に警笛を鳴らしています。私も著者の考え方に深く共鳴しています。つまり人口が減っても生活上の利便性や快適性が失われない地域、又技術革新などを取り込むことで、これまで以上に暮らしやすい地域をつくる事など、大きな考え方に基づいて地域をつくる事が非常に大切であると思っています。

## プロフィール

下妻一高卒  
中央大学理工学部卒  
茨城市町村政策研究会会員  
若者政治家養成塾（一期生）  
税理士法人報徳事務所 勤務  
ファイナンシャルプランナー  
医業経営コンサルタント

編集発行 菊池ひろしと未来を語る会  
代表 菊池 博  
討議資料 下妻市鎌庭132-3

電話/FAX 0296-43-7703

HP <http://www.geocities.jp/meigenso1962>  
E-mail [meigenso0308@ybb.ne.jp](mailto:meigenso0308@ybb.ne.jp)